


黒澤・小川編『標準師範学校音楽教科書』(1938)における歌曲

鈴木 慎一郎 (兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科) 奥 忍 (岡山大学教育学部)

本稿の目的は、黒澤隆朝・小川一朗編『標準師範学校音楽教科書』(1938)の歌曲を概観することによって、国定師範学校教科書が発行される直前の検定済教科書における歌曲の特徴と傾向を明らかにすることである。『師範音楽 本科用巻一』(1943)との比較を通して、以下の3点が明らかとなった。

- ①『標準師範学校音楽教科書』は、歌曲の他、器楽、鑑賞、音楽理論、音楽基礎の分野を含み、編纂された教科書である。
- ②8割近くの歌曲は、西洋の作品ないしは西洋の民謡であり、それらの歌詞は原曲の翻案か、新しく作られた日本語の詩である。
- ③ミリタリズム志向の歌曲教材には、4/4拍子、、弱起、長調の行進曲が適用されている。

キーワード: 『標準師範学校音楽教科書』, 歌曲, 黒澤隆朝・小川一朗, ミリタリズム, 行進曲

I. はじめに

1. 研究目的

本稿の目的は、国定師範学校教科書が発行される直前の検定済教科書における歌曲の特徴と傾向の一側面を明らかにすることである。

筆者はこれまで「昭和前期の音楽教員養成」に関する研究を行ってきた。国定師範学校教科書である『師範音楽 本科用巻一』(1943)については歌曲の考察を行った結果、超国家主義、ミリタリズムの傾向が強いことを明らかにした(鈴木 2004: 18)。では、『師範音楽 本科用巻一』が発行される直前の検定済教科書ではどのような歌曲が掲載され、実践されていたのだろうか。

本稿では、1938(昭和13)年に発行された黒澤隆朝・小川一朗編『標準師範学校音楽教科書』第一編、第二編の2冊の検定済教科書を分析対象とした。当時発行された多くの検定済教科書の中で、『標準師範学校音楽教科書』を取り上げた理由は、以下の5点である。

- ①師範学校と高等女学校の両校を対象とした音楽科用教科書が多い中で、『標準師範学校音楽教科書』は対象を師範学校に特化した音楽科用教科書である点。
- ②著者の黒澤隆朝¹⁾と小川一朗²⁾は、『改訂標準女子音楽教科書』³⁾(昭和14年2月25日修正再版)

や『標準オルガン教則本』(昭和15年7月19日訂正再版)等の文部省検定済師範学校音楽科用教科書を複数著した、この分野の推進者である点。

- ③共益商社書店⁴⁾という主流の出版社から発行され、多くの師範学校において使用されたと考えられる点。
- ④『師範音楽 本科用巻一』(以下『師範音楽』と略記)、『師範器楽 本科用巻一』(以下『師範器楽』と略記)が発行される5年前に発行された検定済教科書であり、『師範音楽』『師範器楽』に影響を与えた可能性が考えられる点。
- ⑤香川県師範学校で実際に使用された教科書であり、当時の授業メモが残されているため、『標準師範学校音楽教科書』の実践事例を挙げるができる点。

2. 先行研究の検討と研究の方法

初等教育段階の唱歌、音楽の教科書に関しては、唐澤富太郎『教科書の歴史』(1956)、堀内敬三・井上武士編『日本唱歌集』(1958)、海後宗臣編『日本教科書体系近代編第二十五巻唱歌』(1965)等がある。しかし、師範学校の音楽科用教科書に関する先行研究は少なく、別府愛「福井直秋の教育活動と当時の教育状況－師範学校の教育を中心にして－」

(2000)の中に師範学校の音楽科用教科書に関して以下のような言及が見られるに留まっている(別府2000:69)。

師範学校の教科書については、明治40年の師範学校規定47条で、地方長官の裁断により文部大臣に開申するものとされ、明治44年の規定改正によって「文部大臣の検定を経たるものに就き地方長官の許可を経て学校長これを定むべし但し文部大臣の検定を経ざる教科用図書を使用する必要があるときは地方長官は文部大臣の許可を経て一時その使用を許可することを得」と検定制度が採用された。この制度は昭和18年(1943年)に国定制度になるまで続いた。

別府は、上記のような教科書制度に関する記述の他、師範学校の音楽科用教科書として、『音程教本』(1912)、『師範学校楽典教本』『師範学校本科二部楽典教本』(1915)、『師範音楽教本二部用 一・二』(1931)等教冊紹介している。しかしながら、別府は福井直秋が著した教科書を研究対象としている。そのため、その他の著者によって編纂された教科書は除外されている。

ところで、歌詞内容の分類を行っているのは、唐澤の研究である。この分類方法は、音楽教育学の研究でもしばしば参考にされている。本稿においても唐澤による分類に則っている。しかし、唐澤の研究は、音楽分析の視点からの検討がなされていない。

なお、先述の唐澤、堀内・井上の研究によると、小学校の音楽の教科書における超国家主義、ミリタリズムの傾向が見られ始めたのは、1932(昭和7)年の『新訂尋常小学唱歌』(全6冊)とされている。その傾向がさらに顕著になるのは、1941(昭和16)年から1943(昭和18)年にかけて発行された文部省国定の国民学校の音楽教科書である。

前述の通り、文部省国定教科書『師範音楽』には超国家主義、ミリタリズムの傾向が確認できた。で

は、『標準師範学校音楽教科書』(1938)においても、同様の傾向が見られるのだろうか。

そこで、本稿では次の方法を採用する。第一に、「師範学校教授要目」(昭和6年)との関係から『標準師範学校音楽教科書』の位置付けを行う。第二に、『標準師範学校音楽教科書』の歌曲について、音楽と歌詞の2視点から概観する。第三に、「ミリタリズム」の歌詞によって構成されている歌曲の特徴ならびに実践事例を考察する。

なお、表記に関しては旧字体を使用せず、新字体表記を原則としている。

II. 『標準師範学校音楽教科書』の位置付け

1. 1938(昭和13)年度における検定済教科用図書の特徴

1886(明治19)年から1938(昭和13)年の間における検定済教科用図書については、『師範学校中学校高等女学校実業学校青年学校小学校検定済教科用図書表』⁵⁾に掲載されている。それに基づいて作成した表1は、1938(昭和13)年度に検定に合格した師範学校の音楽科用教科書の一覧である。ここに掲載されている20冊の教科書の中に、『標準師範学校音楽教科書』が含まれている。この教科書と並んで『国民精神総動員軍歌唱歌集』『大日本傷疾軍人歌』等軍歌を扱った教科書が発行されていることから、戦時色が強くなりつつあることが推察される。

ところで、『標準師範学校音楽教科書』が共益商社書店の作成した教科書の注文書である「文部省選定昭和十七年度中等学校・青年学校音楽教科書」⁶⁾の中に掲載されている。このことから、『標準師範学校音楽教科書』が1939(昭和14)年から1942(昭和17)年においても使用されたと推察される。

表1 1938(昭和13)年度における検定済教科用図書

図書名	巻	発行	検定	著者	発行者
女子楽典教科書	1	訂正 14. 1. 26	14. 1. 31	楽書出版協会	守屋 大森 岡本
皇后宮御歌やすらかに	1	修正 13. 4. 5	13. 4. 7	財団法人全国神職会	財団法人全国神職会
紀元二千六百年記念 日本万国博覧会行進曲	1	13. 4. 8	13. 4. 11	紀元2600年記念 日本万国博覧会	社団法人日本万国博覧会 協会
紀元二千六百年頌歌	1	13. 4. 10	13. 5. 3	紀元二千六百年奉祝会	紀元二千六百年奉祝会
道民奉公歌	1	13. 4. 17	13. 5. 3	北海道府	北海道府
日の丸行進曲	1	修正 13. 5. 5	13. 5. 18	大阪毎日新聞社東京支店	
国民精神総動員軍歌唱歌集	1	修正再版 13. 6. 25	13. 7. 13	大日本作曲者協会 日本作家者協会	合資会社共益商社書店
大日本の歌	1	修正再版 13. 7. 21	13. 7. 27	財団法人日本文化中央 連盟	財団法人日本文化中央連 盟

黒澤・小川編『標準師範学校音楽教科書』（1938）における歌曲

婦人愛国の歌	1	訂正 13. 7. 23	13. 8. 5	上條操 瀬戸口藤吉	石川武美
勤儉貯蓄の歌みのり	1	13. 9. 15	13. 9. 21	貯金局	貯金局
傷疾の勇士	1	13. 10. 5	13. 10. 6	傷兵保護院	傷兵保護院
音楽	5	訂正 13. 9. 30	13. 10. 7	乗杉嘉壽	株式会社帝国書店
健生歌	1	13. 10. 14	13. 10. 18	日比野寛	合資会社共益商社書店
大陸行進曲	1	修正 13. 12. 13	13. 12. 13	大阪毎日新聞社東京支店	
愛馬進軍歌	1	13. 12. 28	14. 1. 9	陸軍省馬政課	陸軍省軍政課
標準師範学校音楽教科書	2	修正再版 13. 12. 20	14. 1. 28	黒澤隆朝 小川一朗	合資会社共益商社書店
大日本傷疾軍人歌	1	14. 2. 4	14. 2. 6	財団法人大日本傷疾軍人会	財団法人大日本傷疾軍人会
修訂女子音楽教本	5	訂正 14. 2. 10	14. 2. 10	福井直秋	株式会社帝国書院
改訂女子音楽教科書	5	修正再版 14. 2. 25	14. 3. 11	黒澤隆朝 小川一朗 林幸光	合資会社共益商社書店
明治天皇御製馬	1	14. 3. 16	14. 3. 27	仁保活咄	畜類慈愛会

出典 文部省『師範学校中学校高等女学校実業学校青年学校小学校検定済教科用図書表 自昭和十三年四月至昭和十四年三月』pp. 5-7から作成。

2. 「師範学校教授要目」（昭和6年）

『標準師範学校音楽教科書』は1931（昭和6）年に全面改正された「師範学校教授要目」に基づいて作成されている。1931（昭和6）年の「師範学校教授要目」では、師範学校の音楽は「歌曲・楽典・小学校に於ける唱歌教授法及教材の研究・基本練習・楽器使用」の5領域に分けられ、各学年の内容、注意が示されている⁷⁾。表2は「師範学校教授要目」の中から歌曲に関する部分を抽出して作成したものである。

師範学校では第1学年から合唱が取り入れられている。また、歌詞に関しては「歌曲ハ歌詞・曲調共ニ国民精神ヲ涵養シ得ル高尚優雅ナルモノヲ選ブベシ」という注意が記されている。

表2 「師範学校教授要目」における歌曲

学年	内容	時数
第一部	1年 単音唱歌 輪唱曲 重音唱歌	2
	2年 前学年ニ於ケル教授事項ニ就キ程度稍進ミタルモノヲ課スベシ	2
	3年 単音唱歌 輪唱曲 諸重音唱歌	2
	4年 前学年ニ於ケル教授事項ニ就キ程度稍進ミタルモノヲ課スベシ	2
	5年 前学年ニ於ケル教授事項ニ就キ程度稍進ミタルモノヲ課スベシ	2
	増課 4, 5年 基本教材ニ於ケル教授事項ニ就キ程度稍進ミタルモノヲ課スベシ	2-4
第二部	1年 本科第一部ニ於ケル教授事項ニ就キ適宜斟酌シテ之ヲ課スベシ	2
	2年 本科第一部ニ於ケル教授事項ニ就キ適宜斟酌シテ之ヲ課スベシ	2

増課 1, 2 年	基本教材ニ於ケル教授事項ニ就キ程度稍進ミタルモノヲ課スベシ	2-4
注意	一 唱歌及楽器ノ教授ニハ総テ本譜ヲ用フベシ 三 歌曲ハ歌詞・曲調共ニ国民精神ヲ涵養シ得ル高尚優雅ナルモノヲ選ブベシ又小学校ニ用ヒラルル唱歌ハ必ず練習セシムベシ	

出典 教育史編纂会『明治以降教育制度発達史』第七巻、1939年、pp. 753-756から作成。

注 時数：週あたりの授業時数。

3. 緒言

『標準師範学校音楽教科書』は、第一編（全160ページ）と第二編（全170ページ）の2編から成り、巻頭に以下の同じ「緒言」が掲載されている。

緒言

本書は文部省の音楽教授要目に準拠して師範学校の本科第二部音楽科用教科書として編纂されたものである。

本書の編纂にあたっては次の諸点について能ふ限りの努力を払った。

一 本書一部を以つて、音楽の時間に課せられる教材の総ての分野を網羅することにつとめた。
（中略）

二 教材歌曲はその教材を広く世界の名曲に求め之を調、拍子、リズム等の形態及びその内容に留意し、系統的に配列した。
（以下略）

注 下線は筆者による。

緒言にあるように、『標準師範学校音楽教科書』は、2編を通して歌唱の他、器楽、鑑賞、音楽理論、音楽基礎の分野を扱っている。音楽教授法に関する

項目は設定されていない。しかし、歌唱や器楽の教材として「小学唱歌」が取り上げられていることから、小学校の「唱歌」との関連性が見られる。

以上、『標準師範学校音楽教科書』は、1938（昭和13）年に発行された本科第二部⁸⁾の音楽科用教科書であり、歌曲の他、器楽、鑑賞、音楽理論、音楽基礎の分野を含み、編纂された教科書である。

Ⅲ. 『標準師範学校音楽教科書』の歌曲の音楽と歌詞

「教材歌曲」は、「三 楽典事項及び音楽理論」「四 楽器奏法練習」の箇所でも例示の素材として用いられ、この教科書の中で中心的な位置を占めている。

ここでは、音楽と歌詞の2つの視点から『標準師範学校音楽教科書』における歌曲の特徴を考察したい。作曲者、作詞者、形態、調、拍子、発想標語、速度、音域、伴奏、そして歌詞傾向の一覧表を表3、4として掲げた。

1. 音楽

ここでは表3、4で掲げた中から「作曲者」と「形態」に着目する。

(1) 作曲者

作曲者の出身ならびに民謡を国別に表したものが表5である。地域を特定できなかった6曲を除いた、計44曲を対象としている。独13曲、奥7曲と、半数近くがドイツ、オーストリアの作曲者ないしは民謡で占められているように、西洋音楽によって大部分が構成されている。

表5 作曲者

作曲者名	出身	曲	曲
Beethoven	独	3	
Weber	独	1	
M. Hauptmann	独	1	
Stunts	独	1	
Mendelssohn	独	3	
Schumann	独	1	
Brahms	独	2	
ドイツ民謡	独	1	13
W. A. Mozart	奥	2	
Schubert	奥	5	7
林 廣守	日	1	
黒澤 隆朝	日	2	
小川 一朗	日	2	
小学唱歌集	日	2	7
Mazzinghi, Joseph	英	1	
J. Hatton	英	1	
J. Hullah	英	1	
J. A. Butterfield	英	1	
スコットランド民謡	英	2	6

Rossini	伊	1	
L. Denza	伊	1	
ナポリ民謡	伊	2	4
M. Glinka	露	1	
A. Rubinstein	露	1	2
Offenbach	仏	2	2
ボヘミア民謡	ボヘ	1	1
J. E. Jonasson	スウェ	1	1
ノルウェー国歌	ノルウェ	1	1
次の作曲者については現在不詳。		6	6
H. Alle	Spenger	C. Blom	
E. Jakobowski	T. Willams	Leva	

(2) 形態

第一編の全28曲、第二編の全22曲の形態を示したのが、図1である。第一編と第二編の50曲を合計した形態の内訳は、斉唱17曲（37%）、三部合唱12曲（26%）、二部合唱9曲（20%）、独唱8曲（9%）、四部合唱1曲（2%）、輪唱1曲（2%）、その他2曲（4%）となる。合唱形態を採っているのが、23曲（46%）と全体の半数近くを占める。

歌曲の配列に着眼すると、第一編、第二編とも、斉唱歌から始まっている。第一編に関しては、途中で違う形態のものも少し含まれているとはいうものの、斉唱から輪唱を経て二部合唱、三部合唱へと配列されている。第二編に関しては、輪唱、二部合唱が姿を消し、斉唱、三部合唱、独唱を中心に構成され、第一編では見られなかった四部合唱が含まれている。第一編では2曲であった独唱が、第二編では8曲と増加している。第一編「26 船路」は独唱付三部合唱のように、複数の形態を組み合わせた曲である。

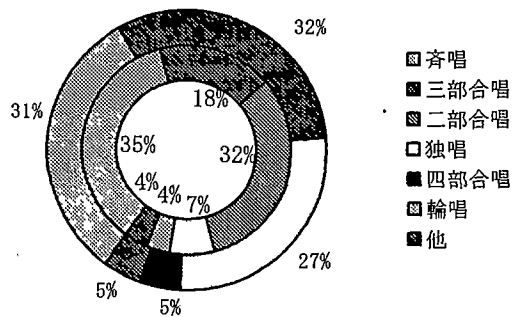


図1 歌曲の形態
内円：第一編，外円：第二編

表3 『標準師範学校音楽教科書』第一編

番	曲名	作曲者名	作詞者名	形態	調	拍子	発想標語	速度	音域	伴奏	歌詞
1	春露	J. Hatton	植村甫	斉唱	C	4/4		80	c-c	×	自然・季節
2	靖国神社	小川一朗	上田壽四郎	斉唱	C	4/4	Andantino	100	c-d	×	超国家主義 シクリズム
3	なみ風		小学唱歌集	斉唱	C	3/4	Moderato	56	h-c	×	抒情・叙事
4	才女	スコットランド 民謡	小学唱歌集	二部	C	4/4	Con molto espressione	84	h-e	○	教訓 抒情・叙事
5	若草の古戦場	スコットランド 民謡	水田詩仙	斉唱	C	4/4	Andantino	84	c-c	○	抒情・叙事
6	故郷さらば	ドイツ民謡	桑田つねし	斉唱	C	4/4	Allegretto	96	c-d	○	抒情・叙事 自然・季節
7	地上の歓喜	Beethoven	水田詩仙	斉唱	G	4/4	Alla marcia	104	d-d	×	教訓 自然・季節
8	郭公ワルツ	J. E. Jonasson	水田詩仙	二部	G	3/4	Andantino	152	h-g	○	自然・季節
9	ボートの唄	H. Aller	桑田つねし	二部	G	3/4	Tempo di Valse	152	d-e	○	生活・勤労
10	樹陰	A. Rubinstein	水田詩仙	独唱	F	2/4	Moderato	60	h-d	○	抒情・叙事 自然・季節
11	夏を楽しむ	Rossini	藤村俊	二部	F	3/4		80	a-f	○	自然・季節
12	朝露	Spenger	水田詩仙	輪唱	F	3/4	Allegretto	116	c-f	×	自然・季節
13	水に映る影	M. Glinka	水田詩仙	二部	D	2/2	Moderato	96	c-d	○	自然・季節
14	須磨の秋	W. A. Mozart	黒沢隆朝	斉唱	D	6/8	Allegretto	132	d-d	△	自然・季節
15	心静かに	W. A. Mozart	水田詩仙	独唱	G	4/4	Larghetto	72	d-e	○	教訓 超国家主義
16	山のうた	L. Denza	桑田つねし	二部	D	6/8	Allegro giusto	112	a-e	○	自然・季節
17	サンタ・ルチア	ナポリ民謡	水田詩仙	二部	C	3/8	Andantino	100	h-e	○	自然・季節 生活・勤労
18	日本帝国	C. Blom	桑田つねし	斉唱	B	4/4	Allegro con spirito	104	f-f	○	超国家主義
19	暮の鐘	ボヘミア民謡	水田詩仙	二部	a	3/4	Lento	80	a-e	○	抒情・叙事 自然・季節
20	護れ空を	黒沢隆朝	上田壽四郎	斉唱	F	3/4	Allegretto	112	c-d	○	超国家主義 シクリズム
21	若人の歌	J. A. Butterfield	植村甫	斉唱	Es	4/4	Allegretto	108	h-d	○	超国家主義 教訓
22	山村の春	不詳	桑田つねし	二部	Es	4/4	Andantino	104	h-e	×	自然・季節
23	鶯の歌	J. Hullah	前田孝	三部	Es	4/4	Moderato	116	g-f	×	自然・季節
24	春の歌	Mendelssohn	水田詩仙	三部	E	6/8	Andante	56	g-e	○	自然・季節
25	鳩と鳥	M. Hauptmann	藤村俊	三部	E	2/4		112	e-e	○	自然・季節 抒情・叙事
26	船路	J. Mazzinghi	水田詩仙	独付三部	G	4/4	Larghetto grazioso	116	g-e	○	抒情・叙事 自然・季節
27	峠を越えて	小川一朗	小垣龍一	三部	F	4/4	Andantino	104	f-g	○	抒情・叙事 自然・季節
28	吾等が精銳	E. Jakobowski	水田詩仙	三部	G	4/4	Allegro marziale	108	g-g	○	シクリズム

表4 『標準師範学校音楽教科書』第二編

番	曲名	作曲者名	作詞者名	形態	調	拍子	発想標語	速度	音域	伴奏	歌詞
1	君が代	林廣守	古歌	斉唱	律	4/4		69	c-d	○	超国家主義
2	天壤無窮	Beethoven	水田詩仙	斉唱	C	4/4	Maestoso	80	c-f	○	超国家主義
3	楽しき春	Beethoven	藤村俊	斉唱	C	6/8	Grazioso	132	c-e	○	自然・季節 抒情・叙事
4	野薔薇	Schubert	藤村俊	独唱	F	2/4	Lieblich	69	f-f	○	自然・季節 抒情・叙事
5	夜の曲	Schubert	黒沢隆朝	独唱	F	3/4	Moderato	69	d-g	○	自然・季節 抒情・叙事
6	母のおもひ		小学唱歌集	斉唱	D	4/4	Moderato	92	c-e	○	教訓 抒情・叙事
7	菩提樹	Schubert	藤村俊	斉唱	E	3/4	Moderato	60	e-e	○	抒情・叙事 自然・季節
8	海辺にて	Schubert	藤村俊	独唱	B	2/2	Molto lento	60	c-e	○	教訓 抒情・叙事
9	出陣の歌	Schumann	水田詩仙	斉唱	G	4/4	Tempo di marcia	104	d-c	○	シクリズム
10	かがやくさつき	Brahms	桑田つねし	独唱	As	2/4	Allegretto grazioso	100	a-f	△	自然・季節
11	山の古寺	Brahms	近藤兼次郎	三部	es	4/4	Andante con moto	54	b-f	×	教訓 抒情・叙事
12	そぞろあるき	Leva	水田詩仙	三部	A	4/4	Allegro brillante	104	g-e	○	教訓 抒情・叙事
13	昭和の日本	Williams	水田詩仙	三部	G	4/4	Andante	108	g-g	○	超国家主義
14	疑乃の調	Offenbach	桑田つねし	三部	D	6/8	Moderato	56	a-f	○	抒情・叙事 自然・季節
15	我が太陽	ナポリ民謡	水田詩仙	独唱	F	2/4	Andante	69	c-f	○	抒情・叙事 自然・季節
16	小琴のしらべ	Schubert	水田詩仙	独唱	C	4/4	Moderato	88	h-e	○	抒情・叙事
17	狩人の合唱	Weber	桑田つねし	三部	G	2/4	Allegretto con brio	112	g-f	○	抒情・叙事 生活・勤労
18	青春の歌	Mendelssohn	水田詩仙	斉唱	F	4/4	Andante con moto	92	c-f	○	教訓
19	雲雀の歌	Mendelssohn	黒沢隆朝	四部	G	4/4	Allegro vivace	112	g-g	×	自然・季節
20	スキーの歌	黒沢隆朝	水田詩仙	三部	G	6/8		96	a-e	○	生活・勤労 自然・季節
21	皇軍凱旋	Offenbach	藤村俊	三部	D	4/4	Allegretto con vivo	96	g-f	×	シクリズム
22	富嶽の頌	Stuntz	桑田つねし	三部、四部	C	4/4	Maestoso	108	g-g	○	超国家主義 自然・季節

2. 歌詞

大部分の歌曲は、西洋出身の作曲家、民謡によって構成されていた。それらのすべての曲の作詞は日本人の手によって日本語の歌詞が付けられている。

歌詞の分析については、唐澤富太郎(唐澤 1956 : 532-534)の分類に基づき、「超国家主義」「ミリタリズム」「教訓」「抒情・叙事」「自然・季節」「生活・勤労」「学校」の7のカテゴリーを設定した。第一編と第二編に掲載されている全50曲の歌曲の歌詞内容の大意を分類した結果が、図2である。なお、1曲の歌詞内容の大意が複数のカテゴリーに該当する場合には、重複して計算している。

「自然・季節」が最多で28曲、次に「抒情・叙事」21曲と続いている。「超国家主義」と「ミリタリズム」を合計すると、14曲となる。

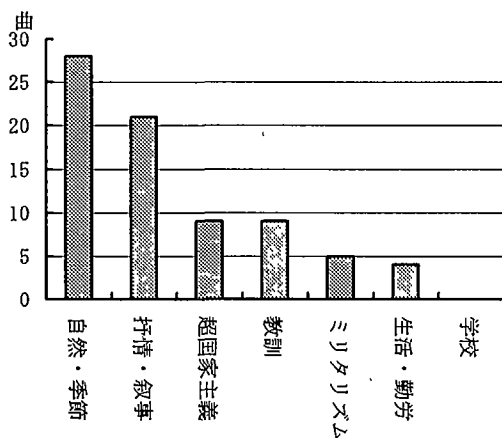


図2 歌詞内容の分類

以上から、次のように整理できる。

- ・ 歌曲の半数近くが、ドイツ・オーストリアの作品と民謡によって、占められている。
- ・ 合唱形態の曲が、全体の半数近くを占める。
- ・ すべての歌詞は日本人の作詞か日本語翻案である。歌詞の内容としては、「自然・季節」(28曲)が最多である。「ミリタリズム」(5曲)の歌曲も存在した。

IV. ミリタリズムの歌曲

1. ミリタリズムの歌曲の特徴

『師範音楽』における歌曲はミリタリズムの傾向が見られたことは、「I. はじめに」で述べた通りである。『標準師範学校音楽教科書』の中でミリタリ

ズムに分類した曲は、「靖国神社」(第一編2)「護れ空を」(第一編20)「吾等が精鋭」(第一編28)「出陣の歌」(第二編9)「皇軍凱旋」(第二編21)の5曲である。ここではこれらの歌曲がどのような特徴を持っているかを、音楽と歌詞の2視点から考察したい。

(1) 音楽

① 「靖国神社」 小川一朗

ハ長調, 4/4 拍子, Andantino (J=100), 斉唱。
A (a+a'+a'') B (a+b+b') の二部形式。この形式は『標準師範学校音楽教科書』の中で次のように説明されている。

これは三楽節よりなる楽段二節からなる、即ち二部分形式の曲である。前楽段は原調(ハ長調)が最後に属調(ト長調)に転調して完全終止し、後楽段は原調(ハ長調)が最後に属調(ト長調)に転調して完全終止し、後楽段は原調に完全終止している。

無伴奏の有節歌曲である。雅楽的な音進行が含まれているため、神道との連関を感じさせる(譜例1)。

譜例1 「靖国神社」 bar. 1-4



出典 『標準師範学校音楽教科書』第一編, p. 14.

② 「護れ空を」 黒田隆朝

ヘ長調, 3/4 拍子, Allegretto (J=112), 斉唱。前奏の部分を除いた、歌の旋律の小節数は19。不均等な小節数で構成される、A (a+b) B (c+a) の二部形式(譜例2)。

譜例2 「護れ空を」 bar. 20-24



出典 『標準師範学校音楽教科書』第一編, p. 105.

③ 「吾等が精鋭」 E. Jakobowski

ト長調, 4/4 拍子, Allegro marziale (J=108),

三部合唱。歌の出だしの4小節後に続き、8小節の旋律が反復されている。ピアノ伴奏付き、有節歌曲である。出だしの4小節は、ファンファーレ的な役割を担っている(譜例3-1)。最後の44小節において、音域が広がってダイナミックな終結をする(譜例3-2)。

譜例3-1 「吾等が精鋭」 bar.7-10



出典 『標準師範学校音楽教科書』第一編, p. 135.

譜例3-2 「吾等が精鋭」 bar.43-46



出典 『標準師範学校音楽教科書』第一編, p. 139.

④ 「出陣の歌」 R. Schumann

ト長調, 4/4 拍子, Tempo di marcia (J=104), 斉唱。A (a+a') B (b+a') の二部形式。ピアノ伴奏が付き、有節歌曲である。

弱起と ♩ を含めたマーチ風のリズムが使用されているものの、テンポが遅いため重みのある堂々とした曲想となっている。ピアノ伴奏については、13小節になると、伴奏の雰囲気が変わり、低音域の和音の響きで重々しい雰囲気を持っている(譜例4)。

譜例4 「出陣の歌」 bar.13-16



出典 『標準師範学校音楽教科書』第二編, p. 34.

⑤ 「皇軍凱旋」 J. Offenbach

ニ長調, 4/4 拍子, Allegretto con vivo. (J=96), 三部合唱。A (a+a') B (b+a') C (c+c') の三部形式。Bの部分で平行調のロ短調へ転調し、12小節から再びニ長調へ戻る(譜例5-1)。無伴奏。弱起と ♩ を含めたマーチ風のリズムで躍動感のある曲想である。9小節でロ短調に転調することで、前後の曲想と対比させている。特に17から18小節の旋律が、21から22小節で、反復されて勇壮活発な雰囲気曲を閉じている(譜例5-2)。

譜例5-1 「皇軍凱旋」 bar.9-12



出典 『標準師範学校音楽教科書』第二編, p. 110.

譜例5-2 「皇軍凱旋」 bar.21-24



出典 『標準師範学校音楽教科書』第二編, p. 111.

以上、ミタリズムの歌曲として以下の点が指摘できる。

- ・日本人によって作曲された「靖国神社」と「護れ空を」は、不均等な小節数による二部形式で構成されている。
- ・西洋人による既成曲を利用した残りの3曲は、4/4拍子, ♩ を含めた行進曲風のリズム, 弱起, 長調の特徴が見られ、力強さを表している。

(2) 歌詞

歌詞についてさらにキーワードによって分析したものが、表6である。これらの曲は「皇軍」「兵器」「銃」等の軍国主義のキーワードによって構成されている。特に、「出陣の歌」の歌詞は「万葉集」の「海ゆかば」の詩を踏まえて作詞されている(資料1)。

表6 「ミリタリズム」の歌曲における歌詞

編	番	曲名	愛国心・皇室崇拜・軍国主義に関する語
第一編	2	靖国神社	大鳥居, 御国の鎮, 武士, 尊き霊, 祀る, 御苑, 丈夫, 誉, 櫻花, 治る御代, すめら帝もいでまして, 額づき給ふ畏さよ
	20	護れ空を	護れ空を, わが日本の皿のかぎり, 死もて護れや
	28	吾等が精鋭	響く喇叭の音, 吾等が精鋭, 無敵の誉, 正義と剛毅, 勇士, 皇軍, 世界に誇る兵器, 靴音耳を衝く, 威風堂々, 守護, 万々歳
第二編	9	出陣の歌	戦に召されるる日, 誉, 銃とりて, 太刀, 勇み行く, 門出, 大丈夫, 国に尽す, 屍, 骨, 大君, 仇なす敵, 金匱無欠,
	21	皇軍凱旋	日の御旗, 誉, 奮戦苦闘の態, 勇士, 故国, 皇軍, 武勲, 砲弾, 血潮, 凱旋

資料1 「出陣の歌」

<p>【古歌】 海ゆかば水濱野山ゆかば軍むす屍 大君の邊にこそ死なめどには死なじ (高木兼光)</p>	<p>二大丈夫が 國に遊す 秋は来る いざや行かん 山に骨を晒すとも 海に屍沈むとも 討たて止むべき 大君に 仇なす敵 國の力示さんいざや 金匱無欠三千年の 國の力示さんいざや</p>	<p>一今ぞ来る 今日此の日 日頃待ちに待ちし 此の日 戦に召さるる日よ 何にたとへん此の譽 銃とりて 太刀佩きて勇み行く此の門出 父母と兄弟よ喜びて別れんいざや</p>	<p>出陣の歌 水田 詩仙</p>
---	--	---	-----------------------

出典 『標準師範学校音楽教科書』第二編, p. 35

2. 歌曲指導の実際

ここでは歌曲が実際にどのように実践されたかについて考察するために、一例として「皇軍凱旋」を取り上げる。取り上げた理由は、香川県師範学校音楽科教員であった金光武義氏⁹⁾の授業メモが残されており、当時の歌曲指導の實際を推察することが可能であるからである。

資料2は金光氏の授業メモである。これを基に整理すると、以下ようになる。

1. 斉唱
↓
2. 前楽段を二重唱+後楽段を合唱
↓
3. 伴唱付き(ラ), ソロまたは斉唱
↓
4. 三部合唱(教科書通り)

資料2 金光氏の授業メモ

皇軍凱旋

1. 伴奏誘導(ラ) 斉唱付
2. 二重唱(前楽段) 合唱 後半
3. ソロ(前楽段) 伴唱付 ララララララ
4. 三部合唱 教科書通り

指揮 逸見
伴奏 松下
ソロ
二重唱:
Tenor... Baritone Bass.

金光氏は三部合唱だけではなく、独唱、斉唱、重唱の形態で「皇軍凱旋」を指導している。資料2に記されている通り「4. 三部合唱」では、指揮や伴奏も生徒に分担させて、実践的な指導を展開している。

資料3は、伴唱用¹⁰⁾の金光氏編曲の楽譜である。資料2に記してある通り、金光氏は独唱や斉唱を行う際の伴奏を、伴唱、つまり声を用いて伴奏を加えている。この伴唱は、基本的に『標準師範学校音楽教科書』に掲載されている三部合唱の楽譜の中声部、低声部の旋律を使用している。

ここでの伴唱は、4拍子を刻む役割を担っている。スタッカートを付け、「ラ」で歌うよう資料3に指示されている。伴唱の旋律は和音を受け持ち、ひたすら行進している歩兵の様子を想像させる。この伴唱に高音部の旋律を加えることで、ミリタリズムの歌曲の持つ雰囲気強調している。

今回、授業の中において歌曲の歌詞の意味をどう指導していたかについては明らかにすることができなかった。しかし、音楽面では伴唱を加えることで、ミリタリズムの歌曲の有する行進曲的な雰囲気強調していたことが分かった。

資料3 伴唱用の金光氏編曲の楽譜



V. 『師範音楽』との比較

以上のような『標準師範学校音楽教科書』の特徴を、5年後に発行された国定教科書『師範音楽』と対照すると表7のように整理できる。両教科書を比較すると、編纂方法の共通点として以下の点が指摘できる。

- ・1冊の教科書の中に歌曲、音楽理論、音楽基礎が含まれている。
- ・音楽教授法が含まれていない。
- ・教科書の中において歌曲の占める割合が高い。

- また、相違点として以下の点が指摘できる。
- ・『標準師範学校音楽教科書』では器楽の内容が含まれているのに対して、『師範音楽』では含まれていない。
 - ・『標準師範学校音楽教科書』では日本音楽史の内容が含まれていないのに対して、『師範音楽』では含まれている。
 - ・『標準師範学校音楽教科書』では鑑賞が含まれているのに対して、『師範音楽』では含まれていない。

歌曲に着目すると、共通点としては、すべての歌詞が日本語である点が挙げられる。相違点として以下の点が指摘できる。

- ・『標準師範学校音楽教科書』では8割の歌曲が西洋人によって作曲された曲を利用しているのに対して、『師範音楽』ではすべて日本人によって作曲されている。
- ・『標準師範学校音楽教科書』では46%が合唱形態であるのに対して、『師範音楽』では64%が合唱形態を採っている。
- ・『標準師範学校音楽教科書』では自然・季節を扱った歌詞内容が最多であるのに対して、『師範音楽』では超国家主義、ミリタリズムを扱ったものが最多である。

表7 『標準師範学校音楽教科書』と『師範音楽』との比較

		『標準師範学校音楽教科書』(1938)	『師範音楽』(1943)
教科書		文部省検定済教科書	文部省国定教科書
ページ		第一編…160ページ, 第二編…170ページ B5版	180ページ B5版
構成		歌曲(38%), 器楽(18%), 鑑賞(17%), 音楽理論(21%), 音楽基礎(7%)の分野を関連付けて構成。 音楽教授法は含まれていない。	「儀式唱歌」(12%)「歌曲」(52%)「基礎練習」(5%)「音楽理論」(19%)「日本音楽史」(9%)の他, 附録により構成。 音楽教授法, 器楽は含まれていない。
歌 曲	歌曲	第一編…28曲, 第二編…22曲	22曲
	作曲者	西洋…43曲(独, 奥…20曲) 日本…7曲	すべて日本人
	作詞者	すべて日本人	すべて日本人
	形態	合唱…23曲(46%)	合唱…14曲(64%)
	歌詞	自然・季節 超国家主義, ミリタリズムの歌詞も存在する。	超国家主義, ミリタリズム


VI. おわりに

考察の結果、『標準師範学校音楽教科書』について、以下の4点が指摘できる。

① 『標準師範学校音楽教科書』は、師範学校本科第二部の音楽科用教科書であり、歌曲の他、器楽、鑑賞、音楽理論、音楽基礎の分野を含み、編纂された教科書である。

② 8割近くの歌曲は、西洋の作曲者によって作曲された曲ないしは西洋の民謡であり、それらの歌詞は原曲の翻案か、新しく作られた日本語の詩である。

「自然・季節」を扱った歌詞が多い中、「超国家主義」「ミリタリズム」の歌詞も使用されており、音楽教科書のミリタリズムの傾向が確認できる。

③ ミリタリズムの歌詞が付けられていた歌曲の多くに共通する点としては、4/4 拍子、 を含めた行進曲風のリズム、弱起、長調の特徴を持っている西洋人による既成曲であることが指摘できる。

また、実際に香川県師範学校では多様な合唱形態により実践が行われた。師範学校音楽科教員が適宜、編曲を行い、生徒に歌わせていた。

『師範音楽』では西洋の作曲家による音楽が含まれておらず、日本が強調されていたのに対し、『標準師範学校音楽教科書』では西洋音楽が多く用いられていたという大きな相違点が見られる。しかしながら、『標準師範学校音楽教科書』でもミリタリズムの歌詞が取り上げられ、戦時色が強くなりつつあることを推察できる。

今後は、器楽曲、鑑賞曲にも同様に検討を進め、そしてそれらの楽曲が互いにどう関わり合っているかについても考察を行いたい。それと同時に、第一部と第二部からなっていた師範学校において、音楽教育の方法や生徒の実態はどのように異なっていたかについてもさらに、詳細に調査を続けたい。

謝辞

本稿を作成するにあたり、金光武義氏から資料の提供と調査の協力を賜りました。ここに記して心より感謝いたします。

注

¹⁾ 黒澤隆朝(1895 秋田-1987 東京)日本の音楽学者。1921年に東京音楽学校を卒業。教育活動に携わる一方、東南アジア音楽の研究に取り組み、1941年《タイにおける楽器の調査》を著した。また、早くから台湾の高砂族音楽や音楽起源論にも関心をもって研究を進めて成果を上げた。著書に《楽器の歴史》(1956)《図解世界楽器大事典》(1972)、《東南アジアの音楽》(1970)などがある(遠山一行・海老沢敏『ラルース世界音楽人名事典』福武書房, 1989, p. 333)。

²⁾ 小川一朗(1896-)。

³⁾ 黒澤は『標準女子音楽教科書』について次のように述べている。「これは音楽教科書としては当時外国にも例のない贅沢なものであった。これは昭和6年から使用され、ほかのものを圧倒して終戦のころには低の節約から、これだけ(?)が文部省の指定を受けた。内容は現今の小・中・高音楽教科書が、みなそのプランを踏襲しているので説明の必要がない。そしてこの教科書の使用法を指導するために、「教授資料集成」というぼう大な参考書を提供了。これが教師諸君に大変利益したようであった(黒澤隆朝「国定教科書から検定教科書へ」『音楽教育研究』8月号第14巻第8号, p. 67)。

⁴⁾ 共益商社書店の創始者は白井練一(1846-1924)。共益商社書店は、島崎赤太郎『オルガン教則本I』(1899)の他、多くの音楽教科書を出版した(赤井励『オルガンの文化史』青弓社, 1995, pp. 121-123)。

⁵⁾ 文部省『検定済教科用図書表』の書名は、発行時期によって若干異なる。

⁶⁾ 「文部省選定昭和十七年度中等学校・青年学校音楽教科書」の一部分は、鈴木慎一朗「オルガンからピアノへー師範学校におけるオルガン・ピアノ指導の変遷ー」『音楽表現学』vol. 2, 2004, p. 41に掲載されている。

⁷⁾ 教育史編纂会『明治以降教育制度発達史』第7巻, 教育資料調査会, 1939, pp. 753-756。

⁸⁾ 1907(明治40)年の「師範学校規定」に基づき、本科第二部が設置された。本科第二部は高等普通教育を終わった者に対する「短期ノ師範教育」を施すものであった。なお、1931(昭和6)年の「師範学校規定」の改正によって、本科第二部の修業年限は2年となり、第一部と対等の地位に引き上げられた(文部省『学制百年史』記述編, 1972, p. 385, p. 502)。

⁹⁾ 1941(昭和16)年3月、東京音楽学校甲種師範科を卒業後、香川県師範学校(1941~1944年、なお1943年に「官立香川師範学校」と校名変更)に音楽科教員として勤務。その後、岡山県立岡山第一高等女学校(1948~1951年)に転任する。1951(昭和26)年、岡山大学教育学部の教官となる。現在、岡山大学教育学部名誉教授。

¹⁰⁾ 合唱により伴奏を付けている。

引用文献

・海後宗臣『日本教科書体系近代編 第二十五巻唱

歌』講談社, 1965。

- ・唐澤富太郎『教科書の歴史』創文社, 1956。
- ・鈴木慎一郎「《師範音楽》(1943)における歌曲についての一考察 - 信時潔作曲<白楽天>を中心にして」芸術教育実践学会誌『芸術教育実践学5』2004。
- ・別府愛「福井直秋の教育活動と当時の教育状況- 師範学校の教育を中心にして-」武蔵野音楽大学音楽教育学科編集委員会『福井直秋解題』2000。
- ・堀内敬三・井上武士『日本唱歌集』岩波書店, 1958。

資料

- ・黒澤隆朝・小川一朗『標準師範学校音楽教科書』第一編, 第二編, 共益商社書店, 1938 (私蔵)。
- ・文部省『師範学校中学校高等女学校実業学校青年学校小学校検定済教科用図書表 自昭和十三年四月至昭和十四年三月』1939 (国立国会図書館蔵)。
- ・文部省『師範音楽 本科用巻一』師範学校教科書株式会社, 1943 (私蔵)。

Title : A Study of Songs in "Hyojun Shihan Gako Ongaku Kyokasho" (1938) Edited by Kurosawa and Ogawa

Shinichiro SUZUKI (Joint Graduate School (Ph.D.Program) in the Science of School Education, Hyogo University of Teacher Education)

Shinobu OKU (Faculty of Education, Okayama University)

Abstract: The purpose of this study is to examine the characteristics of songs in "Hyojun Shihan Gako Ongaku Kyokasho (Music Standard Textbook for normal schools)" (1938) authorized by the Ministry of Education normal schools. The following results were obtained by comparing with "Shihan Ongaku"(1943) designated by the government:

- 1) "Hyojun Shihan Gako Ongaku Kyokasho" was a textbook which contains songs materials, instrumental music, listening, music theory, and sight singing.
- 2) About 80 percent of the song materials were occupied by Western folk songs and songs composed by the European composers. However, lyrics of these songs were adapted from the originals or newly written in Japanese.
- 3) Regarding military-oriented materials, Western marches with 4/4, dotted rhythm, beginning in up-beat, and in major key were adopted.

Keywords : "Hyojun Shihan Gako Ongaku Kyokasho" , Song Materials, T. Kurosawa & I. Ogawa, Militarism, Western Marches
